二〇二三年　千葉大本番レベル模試　国語

解答・採点基準

全3問　１００分　２００点満点

第一問（１００点）

〈現代文　藤原辰史「感動のありか」〉

解答

一　ア　想起　　イ　尋問（訊問）　　ウ　虐殺　　エ　けんそん

オ　す　　カ　せま　　キ　げんしゅく　　ク　括弧

二　ジャブロンカの叙述から、史料が少なくとも状況証拠によって祖母の苦しみを明らかにしようとする執念を感じるとともに、読者の心を動かす執筆技術にも学ぶべき点が多いと感じたから。

三　歴史の中～を与える

四　前者が対象を雄弁に語ることで意図的に供される感動であるのに対し、後者は一徹なまでの正確さや、真理陳述への努力や、旅行者としての調査者の謙遜により付随的に伝わる感動である。

五　歴史を叙述するためには、読者を感動させるべく研究対象を利用するのではなく、一次史料という断片的な情報の収集、整理、提示、組合せと誠実に向きあわなければならないということ。

六　安住

七　歴史学とは、未完成な物語である歴史的断片の不安定さと揺らぎや、それらを結びつける物語を、読者が主体的に探り当てるようにするものであり、その積み重ねの結果として読者に心の動きをもたらしうる学問であるということ。

採点基準

▼採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼小問ごとに、加点法・減点法併用で採点する。０点以下になった場合、その問は０点とする。

▼「Ｘという内容（？点）」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、答案の一部に要素Ｘが含まれているかどうかを判断する。

▼「Ｘ１とＸ２がＹという論理関係になっていなければ、？点減点」の項目は、要素Ｘ１とＸ２が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。つまり、Ｘ１とＸ２のいずれかでも欠けている場合は、Ｙについての減点はしない（Ｙの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。

▼各々の採点項目について、マルかバツかの二択で判断すること。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

一　各２点　１６点満点

1. ア　想起　　イ　尋問（訊問）　　ウ　虐殺　　エ　けんそん

オ　す　　カ　せま　　キ　げんしゅく　　ク　括弧

＊部分点なし。

二　１４点満点

1. ジャブロンカの叙述について、という内容（２点）

＊「ジャブロンカの歴史叙述について」、「ジャブロンカの叙述から」など類似の表現でも可。

2. イデサ（祖母）の苦しみに近づこうとすることに執念を感じた、という内容（４点）

＊「近づこうとする」は「説明する」等類似の表現でも可。

3. ２において足跡が判明しなくとも、状況証拠を集め、説明を試みた、という内容（４点）

＊「足跡が判明しない」は「史料が少ない」等、直接的に理解出来る証拠が存在しないことを示す表現なら可。

4. 読者の心を動かすように書く技術にも、学ぶべき点が多いと感じた、という内容（４点）

＊文末が「～から」「～ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていない場合、１点減点。

三　８点満点

1. 歴史の中～を与える

＊部分点なし。

四　１４点満点

1．前者が対象を雄弁に語ることで意図的に供される感動である、という内容（７点）

＊「雄弁に語る」という内容が欠けている場合、３点減点。

2．後者は一徹なまでの正確さや、真理陳述への努力や、旅行者としての調査者の謙遜により付随的に伝わる感動である、という内容（７点）

＊「一徹なまでの正確さ」、「真理陳述への努力」、「旅行者としての調査者の謙遜」のうち、ひとつ欠けるごとに２点減点。

＊前者と後者の違いについて、「前者が～のに対し、後者は～である」という形で説明していないものは１４点減点。

五　１６点満点

1．歴史の叙述において、読者を感動させるべく研究対象を利用しない、という内容（４点）

2．一次史料の収集、整理、提示、組合せと誠実に向きあわなければならない、という内容（６点）

＊「一次史料」は「事実」でも可。

3．一次史料は断片的な情報である、という内容（６点）

＊「一次史料」は「事実」でも可。

＊「誠実」という語が用いられていない場合は１６点減点。

＊文末が「～こと」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていなければ、１点減点。

六　１０点満点

1．安住

＊部分点なし。

七　２２点満点

1．歴史学とは、という内容（２点）

＊　歴史学についての説明であることが分かる表現であれば可。

2．未完成でしかない物語の不安定さと揺らぎを探り当てる、という内容（５点）

3．２を結びつける物語を読者が探り当てる、という内容（５点）

4．読者に心の動きをもたらす学問である、という内容（５点）

＊「心の動きをもたらす」は「感動」や「驚きと違和感」にあたる表現でも可。

5．心の動きは２、３を積み重ねた結果としてもたらされる、という内容（５点）

＊文末が「～こと」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていなければ、１点減点。

第二問（70点）

〈古文　『古今著聞集』〉

解答

一　a イ　b エ　c ア

二　ア　千手はどうしてお仕えしていないのであろうか（千手はどうしていないのでしょうか）

　　イ　噂であった

三　千手がきらすこしおとりにければ

四　歌の文句が、御室からの寵を失った自らの境遇と重なって、思いに耐えかねたから。

五　仮に私のことを尋ねてくれるはずのあなたであったとしたら

六　法師になりにける

七　千手から三河へ寵を移したのに、千手の今様を聞いてまた千手へと寵を移すというように御室の移ろいやすい心のこと。

採点基準

▼採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

一　各4点　12点満点

＊部分点なし。

二（13点満点）

ア　8点満点

1．「など」を「どうして」というように疑問の意味で訳していない場合、2点減点。

2．「候はぬ」について、「候は」を謙譲語の「お仕えする」または丁寧語（解答例参照）で訳していない場合、2点減点。

3．「候はぬ」について、「ぬ」を打消の意味で訳していない場合、2点減点。

4．「やらん」を「のであろうか」、「のだろうか」などと訳していない場合、2点減点。

イ　5点満点

1．「聞え」を「噂される」などと訳していない場合、3点減点。

2．「けり」を過去の意味で訳していない場合、2点減点。

三　6点満点

＊完答のみ、部分点なし。

四　13点満点

1．「歌（今様）の歌詞が自分の境遇と重なった」といった内容が不足している場合、6点減点。

＊「諸仏に捨てられた」という歌の具体的な文句の記述はなくてよい。

2．千手の境遇について、「御室からの寵（寵愛）を失った」といった内容に触れていない場合、3点減点。

3．千手の心情の説明としての「思ひあまれる」の解釈として「思いに耐えかねた」という内容が不足している場合、4点減点。

＊「思ひあまれる」の解釈をそのまま「思い余った」などにしたものは2点減点。

4．理由を答える結び方になっていない場合、1点減点。

五　6点満点

1．言葉の補いで「私のことを」と目的語を補っていない場合、2点減点。

＊「尋ねてくれる」など「～てくれる」が補ってあれば、「私を」というのがある程度、含意されるので、その場合は1点減点にとどめる。

2．「尋ぬべき君」を「尋ねるはずのあなた」などと訳していない場合、2点減点。

＊「べき」は「～はずの」「～に違いない」といった当然・推量の意味を許容する。「べき」を誤って訳してあれば、この項目は点を与えない。

3．「ならませば」を「～であったとしたら」などと訳していない場合、2点減点。

＊ 断定「なり」は「～である」「～だ」「～なのだ」など。「ませば」は仮定条件の訳だとわかる訳になっていればよい。

六　6点満点

＊ 部分点なし。

七　14点満点

1．「心の花」の解釈として「御室の心が移ろいやすい」、「御室の心が変わりやすい」といった内容が欠けている場合、7点減点。

＊「御室の」という部分が欠けている場合は4点減点。

2．「御室が千手から三河に寵を移した」という内容が不足している場合、2点減点。

3．「御室が三河から今また千手に寵を移した」という内容が不足している場合、3点減点。

4．御室が再び千手に寵を移したきっかけとして「千手の歌った今様」という内容に触れていない場合、2点減点。

5．「どういう心のことなのか」という問いに答える結び方になっていない場合、1点減点。

第三問（３０点）

〈漢文　『韓非子』〉

解答

一　くらは（わ）ざれば（くらは（わ）ずんば・くは（わ）ざれば・くは（わ）ずんば）すなは（わ）ちいく（いくる）（こと）あたは（わ）ず

二　満足するということを知らない者の心配ごとは、生涯、解消されることがない

三　人が持たないではいられない、利益を得ようとする心のことであり、聖人を除いて悩みの種となり、甚だしくなると、悩みや病気、知恵の衰え、思考の誤り、妄動、災い、自責といった苦痛を自身にもたらす、災いの最たるもの。

採点基準

▼採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

一　6点満点

＊完答のみ、部分点なし。

二　10点満点

1.「不知足者」を「満足することを知らない者」のように訳していなければ3点減点。

2.「憂」を「悩み」のように訳していなければ2点減点。

＊「憂患」「憂国」といった場合の「憂」の意味ならばよい。「憂い」「悲しみ」「憂鬱」「憂愁」などの訳は不可。

3.「終身」を「一生」のように訳していなければ2点減点。

4.「不解」を「解消されない」のように訳していなければ3点減点。

＊対比にある「免れず」と同様の意味なら、訳語は幅広く可とする。

三　14点満点

1.「欲利」の解釈として、「利益を得ようとする心のこと」という内容がなければ1点減点。

2.その欲利を第一段落から説明した「人であれば誰しもが持つ」ものだという内容がなければ2点減点。

3.その欲利を第一段落から説明した「聖人以外は悩みの種となる」ものであるという内容がなければ2点減点。

＊「聖人以外」という要素が抜けている場合、1点減点。

4.欲利のもたらすものの列挙として、「甚だしくなると、悩みや病気、知恵の衰え、思考の誤り、妄動、災い、自責といった苦痛が自分にもたらされる」という内容がなければ5点減点。

＊解答例では、「悩み」「病気」「知恵の衰え」「思考の錯誤」「妄動」「災い」「自責」の都合七つが列挙されている。長大に説明した答案が多く見られると思われるが、以下のような原則とする。「病気」を欠く場合、2点減点。そのほかの六個の項目については三個列挙されていれば、この項目は可とする。

5.傍線部の解釈から、欲利が「災いの最たるもの」であるという内容がなければ4点減点。

6.「どのようなものと考えているか」という問いに答える結び方になっていない場合、1点減点。